

炉辺談話(412)

歴代 RI 会長のプロフィール 4

1924-25 年 エバレット・ヒル

オクラホマ州オクラホマシティ

14 代目のロータリー会長は、オクラホマ州で最大の冷凍会社チェーンのオーナーであり、また、詩人でもありました。「彼は素晴らしい捉え方をし、正しい発想を持って詩を書きました。」と、有名な詩人であるエドウィン・マーカムが批評しました。

1930 年代の大恐慌で倒産した彼の事業が、詩を書くという新しい職業に変わったのは、彼にとって極めて自然なことのように思われました。エバレットは能力と関心を研ぎ澄まして、アメリカやカナダの森を歩き回り、行く先々で人間や人生に関する新しい哲学を学びました。彼の 3 冊目であり最後となる詩集は、「金を捜し求める男」と名づけられて、彼の妻クリオに捧げられました。

エバレット・ウェントワース・ヒルは 1916 年に創立されたオクラホマのシャウニー・ロータリークラブのチャーター・メンバーでした。数年後に地区のガバナーになったとき、その年度の特定の日、自らの義務を果たすために、地区内を旅することを宣言しました。1924-25 年には RI の会長として、23 ケ国のクラブを訪問したり、ロータリアン誌の記事を書いたりして、さらに多くの時間をロータリー活動に割きました。

大恐慌の到来によって、彼の事業も中国の美術品の蒐集を含む彼の財産の大部分を失いましたが、楽観主義と信頼という彼の人間性はいささかも失われませんでした。彼の詩は当初は全く売れなくて、1 日 1 セントで生活したこともありましたが、徐々に、幸運の女神が彼の下を訪れ始め、やがて、ミズーリ州スプリングフィールドの近くで農場を営んだ後、クリオと共にオクラホマに戻りました。

彼はしばしば「ロータリーは私のすべてです。」と語りました。彼は、あらゆる場所で常に自らの義務を果たすようにロータリアンを励ましました。事実、ロータリアンはそうあるべきだと彼は考えていたからです。90 歳のときに、ミネソタ州ミネアポリスで開催された 1974 年のロータリー国際大会に出席して、自らの熱心さを証明しました。

それから4年後の1978年5月22日に彼は94歳でこの世を去りました。

1925-26年 ドナルド・アダムス

コネチカット州ニューヘイヴン

ドナルド・アダムスは、ウィスコンシンで生まれましたが、人生の大部分をニューイングランドで過ごしました。

彼はミネソタ州カールトン大学と、エール大学法学部を卒業した弁護士で、ニューヨーク市で数年間弁護士を開業した後に、ニューヘイヴンに戻って、母校のエール大学で商法を教える傍ら、保険代理業を営みました。

ニューヘイヴンとコネチカット州ギルフォードの双方の商工会議所会頭などの要職を務めると共に、ニューヘイヴン市協議会委員やギルフォード財務委員、数多くの事業や教会や社会団体の理事を務めました。

1917年に設立されたニューヘイヴン・ロータリークラブのチャーター・メンバーであり、初期のクラブ会長を務め、1922-23年度に30地区のガバナーを務めました。彼は財務委員会などの委員として、また1947年には国連総会のアドバイザーとしてRIに貢献しました。判断力と理解力を伴ったリーダーシップと管理能力は、しばしばロータリー創設者ポール・ハリスと事務総長チェス・ペリーと比較されるほどでした。

彼の父親も祖父も共にプロテスタントの牧師であり、彼もまた、同様に深い信仰心を持っていました。彼はその精神力を会長職につぎ込みました。彼を師と仰ぎ、後にRI会長を務めた友人のチャールズ・ペッテンギルは、「ロータリーの素晴らしさを具体的に表せば、崇高で、簡潔で、楽しいことです。」と述べています。

ロータリー会長の多くがそうであったように、ドン・アダムスも長生きしました。彼と妻マリオンは61回目の結婚記念日を祝いました。ドンは、90才の誕生日のちょうど2カ月前、1971年7月13日に逝去しました。

1926-27年 ハリー・ロジャース

テキサス州サンアントニオ

ハリー・ロジャースは、1877年にミズーリ州ホイトランド近郊の農村で生まれ、ウェアブロー・クリスチャン大学を卒業しました。大人びた学生で、15歳のときに自ら学校で教え始めて、25歳になるまで教鞭を取りました。その一方で、弁護士の資格をとるために独学で勉強をして、1903年に資格を取った後、オクラホマに移って、ウイウォカという小さな町で弁護士を始めました。その後タルサ市に弁護士事務所を移し、そこでロータリークラブに入りました。

彼は市民活動にも熱心で、タルサ商工会議所会頭を務め、後にオクラホマ州商工会議所会頭や弁護士会会長を務めました。1920年に、テキサス州サンアントニオに移りましたが、タルサ法律事務所とオクラホマにおける事業の双方をこなしました。彼はサンアントニオにおいて社会奉仕活動や、教育委員長や、メキシコのキリスト教研究所の理事長や、公衆衛生協会の会長を務めました。また、彼はキリスト教徒やプロテスタント派の国際大会会長や、オクラホマとテキサスのいくつかの銀行の理事や頭取を務めました。

彼は、2人の仲間と共に、北米鉄道会社やサンアントニオの紡績工場を設立しました。オクラホマのフィリップス大学、オクラホマ大学、テキサス大学、テキサス・クリスチャン大学、テネシーのピーボディ大学の理事を務めました。さらに、オーセージ・インディアンの石油産出地の土地所有権獲得のために働き、国で最も裕福な人たちの部族を作りあげました。

彼はロータリアンとしても活動的で、国際ロータリー会長として選ばれる前に、地区ガバナー、理事、委員、委員長としてロータリーに奉仕しました。1947年、ロータリー創設者ポール・P.ハリスの死後、彼は、ロータリー財団のために200万ドルのメモリアルのキャンペーンの先頭に立ちました。

ハリー・ロジャースは、1957年12月3日に逝去しました。

1927-28年 アーサー・サップ

インディアナ州ハンティントン

アーサー・サップは、オハイオ州のラヴェンナという小さな町で生まれ、近くの農場で成長しました。彼はオハイオ州デラウェアでオハイオ・ウェズレー教徒としての道を歩み、

本の行商や下宿の管理をしたり、ラテン語を教えたりしながら、インディアナ州の大学で法学部の学位を取りました。

1912年に、インディアナ州ハンティントンで法律事務所を開き、三期に亘って起訴弁護士を務めました。また、弁護士会や地元の学校、メソジスト派の教会、YMCA や赤十字やロータリーで積極的に活動しました。

自らのロータリークラブや地区で活動した後、国際ロータリーの理事になり、1925-26年には国際ロータリーの第一副会長、その2年後には会長に就任しました。

彼は、当時「Business Method」と呼ばれていた職業奉仕の指導者として、合衆国、カナダ、メキシコで開かれたあらゆる産業団体の大会で、すべての人が理解できるように印刷した倫理規定を採択するように働きかけました。彼は、また、ロータリー拡大の支持者であり、ハンブルクで、ドイツにおける最初のロータリークラブの設立を手伝いました。彼は、また、RI 財務委員会の委員長を務め、確実に拡大し、発展するプログラムに備えて、将来にわたって組織を健全化する予算をたてることに尽力しました。

彼は優れた演説の能力を持っていることでも有名で、彼の友人たちは政治の世界に足を踏み入れるよう促しましたが、そのような甘言には乗らず控え目な田舎の弁護士の道を選びました。サップの謙虚さと親しみやすさと優れた業績に対して多くの人々は敬愛の情をいただきました。直前会長のハリー・ロジャースは彼のことを思い起こして「彼の堅い握手、楽しそうな微笑、熱意の念」と述べています。

アーサー・サップは1946年8月9日、65歳でこの世を去りました。

1928-29年 I.B.サットン

タンピコ(メキシコ)

トムという名前でロータリーの世界でよく知られているサットンは、ミシガン州サギノーで生まれましたが、人生の大部分はメキシコで過ごしました。彼はアメリカ以外の国で3番目の会長であり、非英語圏で最初の会長でした。

デンバー大学卒業後、コロラド大学で学んだ後、メキシコの炭鉱会社で働き、1912年に、タンピコとメキシコシティの双方に工場を持つゼネラル機械供給社の共同経営者になりました。

彼は、メキシコの善良な市民であり、様々な事業を通じてメキシコの経済発展に貢献しました。例えば、彼の工具会社は当時メキシコの産業において重要な役割を果たしました。その後、彼は、タンピコの製釘会社の社長、銀行の理事、酸素製造会社の創設者兼理事、タンピコ米国商工会議所の創設者兼理事さらに 1918 年には会頭を勤めました。

トム・サットン は 1922 年に創立されたタンピコ・ロータリークラブのチャーター・メンバーとして、ロータリーに大きく貢献し、1927-28 年には第 3 副会長、翌年には会長になり、国際ロータリーの役員として同様に貢献しました。

ロータリーの会長になると外交手腕を発揮してスペイン系アメリカ人の関係改善の指導者となりました。レコードで学んだ彼のスペイン語は流暢で、メキシコ生まれのコンチャ夫人の助けもあって、彼のラテン文化の理解度は素晴らしいものでした。したがって、彼はメキシコやラテンアメリカやその他の国の習慣、言語、人種、宗教が、アメリカとは異なっていたロータリーの拡大に関して、非常に重要な役割を果たしました。彼は会長として、南北アメリカ、ヨーロッパ、東洋の 50 ケ国を訪問しました。

トム・サットン は 1963 年 7 月 24 日に逝去しました。

1929-30 年 ユージン・ニューサム

ノースカロライナ州ダラム

ユージン・ニューサム は 25 周年記念のときの国際ロータリー会長でした。1947 年まで破られなかった出席記録、すなわち 63 の国から、シカゴに 1 万 1000 人以上の人を集めた 25 周年記念国際大会の会長を務めました。

ユージンは 1916 年にロータリアンになり、ワシントン DC のジョージ・ハリスというアメリカで有名な肖像写真家のロータリアンを助けて、ノースカロライナ州のダラム・ロータリークラブを創立しました。ジョージ・ハリスは、ロータリー拡大に専念して、事業家たちに地域社会でクラブを創立するように促しながら、国中を旅行しました。当時、本と文具会社の経営者だったジーンは、彼の言うことを真剣に聞いた青年の一人であり、ダラム・ロータリークラブのチャーター会長になりました。

彼は数年後に 37 地区ガバナーに、1926 年には国際ロータリー理事に就任しました。1925 年のクリーブランド国際大会の委員、職業奉仕と目標設定委員会の委員長を務めました。

また、彼は「地域管理」にも積極的でした。RI の管理下にあり続けたクラブに、自治権を与えるための方策を考え出しました。

ジーンは、ダラムを故郷としてこよなく愛し、ノースカロライナ州のこの町の市長を 2 期務めました。彼はダラムのデューク大学の卒業生であり、長年、同校の経営委員会の理事を務めました。ダラムのリンカーン病院にも貢献し、経営委員会の委員長を長期間務めました。また、ノースカロライナ商工会や地方銀行の会長を務めました。

ジーンにとって最も大切なものはロータリーの友情であり、ロータリーを深刻に考えすぎたり、難しすぎて負担が重すぎることを嫌いました。

ジーン・ニューサムは 1948 年 9 月 14 日にこの世を去るまでの 33 年年間、ロータリーの親睦と友情を楽しんでいました。

2009.7.26